

(コーディネーター)

おはようございます。早速始めたいと思います。

事業番号 10、事業名ふれあいセンター施設運営負担金交付事業です。5分程度の時間をかけてご説明お願いいたします。

(説明者)

それでは、ふれあいセンター運営負担金交付事業について、ご説明させていただきます。お手元の資料の 46 ページ、補足説明資料をご覧くださいと思います。まず、施設の概要について申し上げます。場所につきましては、京阪電車の枚方市駅の東改札口正面でございます。施設全体の名称は枚方市駅市民サービスセンターで、その中には 3 つの施設が一つの施設に入った複合施設となっております。まず、その中の文化観光課が所管しております市民ふれあいセンターについて、説明させていただきます。

枚方市駅観光拠点事業として、特定非営利活動法人枚方文化観光協会に委託をして観光情報を提供する観光案内所や、枚方市の物産や枚方市の友好都市、市民交流都市の物産を販売するコーナーなどがございます。また、障害者事業協会が運営しております喫茶わおというものがございます。簡単な食事や飲み物などを提供しております。そして本市で唯一のコミュニティ FM として市の方からも出資をしておりますエフエムひらかたがその存在を市民により広くアピールするために、サテライトスタジオにおいて番組を生放送しております。以上がこの(1)の市民ふれあいセンターでございます。

次に、2 番目の(2)の市民課サービスセンターでは住民票や戸籍などの証明書を発行しております。この市民課サービスセンターだけが、平日は午前 8 時から午後の 8 時まで開設しておりますので、他の施設とは開館時間が少し異なるために出入り口を別けております。

最後に、(3)のふれあいホールでございますが、それはサンプラザ生涯学習市民センターの一室で美術、工芸などを展示する施設として、一般に貸し出しを行っております。

この負担金交付事業の目的といたしまして、市民への多様な情報提供及び障害者の社会参加などを通じて市民相互の交流を促進し、本市の玄関口としての地理的メリットを生かして本市の観光拠点事業としての機能を強化することでございます。この目的のために、負担金交付事業の名称は、ふれあいセンター施設運営負担金交付事業となっておりますけれども、先ほど説明いたしました全体の建物、市駅市民サービスセンターの施設全体の維持管理経費をまとめて支払っておるものでございます。

なお、負担金の内訳は資料 47 ページをご覧くださいますと、専有部分の設備が約 205 万円専有部分の施設点検費用が 110 万円、そして、共用部分の使用維持管理費としまして 795 万円となっております。京阪電鉄からの施設の家賃については、ご厚意により無償となっております。負担金交付事業の枠の中で、光熱費などの実費も支払っております。決算額の推移とありますが、その合計額、負担金と光熱費の合計額でございます。

電気代、水道代につきましては、文化観光課から直接支払っております。ガスについては、使用しておりますのが喫茶わおだけでございますので、これについては障害者事業協会の方が直接支払う形になっております。

枚方市駅の1日の乗降客数というのが、約9万3,000人でございます。京阪電車沿線の各駅の中でも淀屋橋、京橋について3番目となっております。集客や便の面からも、駅構内での活用は大いに大変重要であると考えております。この施設の中に入りますと、ワンフロアのオープンスペースになっておりまして、区切りがないために一番奥にありますふれあいホールの入場者数をもって、この施設の来場者数というふうに積算しております。

また、文化観光課として、この負担金事業とは別に、この施設を活用しました枚方市駅観光拠点事業がございます。これは、先ほど申しましたNPOの枚方文化観光協会に年間756万4,000円で委託をしており、枚方の文化観光情報の提供を行っております。例えば、どんな見どころがあるのか、どこにあるのか、どこに行けばわかるのかといった問い合わせに、ボランティアの観光ガイドさんが対応する観光案内所がございます。枚方市外の人にとってはもちろんでございますけれども、枚方市民の方にとっても郷土に愛着を持っていただく機会にもなりますので、さまざまな文化、歴史遺産を巡るコースをご紹介させていただいたりしているところでございます。平成21年度のこのガイドさんへの電話問い合わせは約340件、来場者は約1,000人でございます。市内へのガイド件数119件、延べ3,500人ほどの方をご案内させていただきました。ボランティアガイドさんの人数は約40人おいでいただいております。交替でご案内していただいております。

また、ふれあいセンター内にある市役所の各課のお知らせやイベントの案内チラシ、パンフレット、市内の観光マップなどを置いて配布していただいております。また、市民会館大ホールでのコンサートなどのチケットもここで販売しております。平成21年度は32事業の取り扱いをし、販売いたしました。また、物産コーナーでは、枚方にちなんだ郷土のお菓子や、友好都市、交流都市などの特産物、物産品などを扱っております。平成6年に開設して以来、この間、物産販売の種類を増やしていったり、FMサテライトスタジオを誘致するなど、にぎわい創出のための取り組みを進めてまいりましたが、駅構内という利便性を考えますとまだまだ不十分であり、担当部署といたしましては、観光拠点としての機能を充実していきたいと考えております。そのためには、内部のレイアウトの変更や、案内パネルを増やすなどして周知の方法について、より効果的に行っていきたいと考えております。

以上でございます。

(コーディネーター)

すみません、補足資料に関しましては、補足資料に沿ってご説明いただきましたけれ

ども、基本的に事業シートに沿って、事業シートに書き切れない部分を基本のご説明ください。補足資料は、必要に応じて参照資料をいただけたら結構ですので、以降の方につきましてはすみませんがよろしく申し上げます。

では議論の方に移りたいと思います。仕分け人の方よろしく申し上げます。

(仕分け人)

基本的なことから伺いたいのですが、共用部分の使用に関する費用ってというのは、それはどういうものなのでしょうか、それと、もう一つの清掃というものも、どの部分をやっているのかというあたりを教えてくださいませんか。

(説明者)

共用部分の件でございますけれども、費用につきましては、駅舎内の施設の一部を無償提供していただいております。共用の部分は駅全体のエスカレーターでありますとか、エレベーターでありますとか、通路の部分について面積按分で双方が使用している部分の負担という割合になっております。

このページの清掃費用につきましては当然専有しておりますふれあいセンターなりの清掃、日常清掃委託ということになります。

(仕分け人)

センター内の清掃というのは、金額的には315万円ぐらいですね、そうしますと、お客さんを迎え入れる施設ですよ、通常お客さんを迎え入れる場合なんかは、職員さんとかは掃除とかはされないんですか。

(説明者)

床面だとかもちろんふれあいホール、一般利用の貸室になってますけれども、事務所スペースの部分については職員の方で掃除だとか、商品の方の入れ替え、商品の並べ換えなんかは職員の手でやっておりますけれども、いわゆるフロア部分の定期清掃、ワックスなどについては委託、施設清掃だけでなく、施設の空調機だとか防災設備等の点検委託もされています。

(仕分け人)

ということはこの313万5,000円という費用は、床のワックスがけと。

(説明者)

日常清掃ですね。

(仕分け人)

日常清掃とはどういうことですか。

要は、たぶん窓口業務をしている職員自身は時間帯によってはすごく混むと思うんですけども、普通のときって、結構時間空くときありますよね。そういった時間にある程度職員さんの方でも掃除とかされているにもかかわらず、される時間があるにもかかわらず、こんなにもかかるのかなという。

(説明者)

通常委託してる清掃作業は、開館までに専有フロアの清掃をしていただく形になっていきます。

(仕分け人)

それでは、関連してご質問いたしますが、専有部分あるいは共用部分の維持管理費というのは、これは枚方市が全額負担されておられるんですね。

(説明者)

はい、そうです。専有部分は当然枚方市ですし、共用部分の面積按分、いわゆる駅舎全体の中でふれあいセンター、この施設は630㎡程持っておりますので、630㎡に見合う割合の部分だけは共用部分にして、いわゆるマンションでいえば、共益費というかそういう類の区分になります。

(仕分け人)

そこで、あえてご質問させていただくわけですが、少なくとも家賃は公共的な使用ということで免除されておるわけですけども、この本来専有部分、あるいは共用部分について、やはり入っておられるところから利益といえますか、利用者負担的な要素として、いくばくかの費用の負担は考えておられますか。

(説明者)

今おっしゃっているのは、入っている部分を全員で負担してください、そういう。

(仕分け人)

まず、清掃費用は、使用してるテナントがそれを負担すべきだろうと。この市民ホール見ますとね、このふれあいホール見ますと、全体は共有ということでされているんですけども、共用の中に、FM だとか、あるいはわおとか、市民ホールとかありますよね。それぞれの各種団体が、自分の専有分の清掃については当然負担すべきではないか、また、共用部分についても比例按分で割り振って負担するべきではないかという

うように思うわけです。

ただ、そうはいつでも急激にそういうものを負担しろと言うわけにいかないわけですが、当然そこからそれなりの使用者利益というところについては、一定の負担をしていただくべきではないかと、こういうように思っておりますけれども、それについて。

(説明者)

先ほど説明させていただきましたように、この施設は市民課が直営運営する市民課サービスコーナーと、生涯学習市民センター、これは生涯学習課が所管しておりますけれども、その一室でありますふれあいホール、展示、貸し出しをする一般ホール、それと文化観光協会に委託をしております、ふれあいホール、そして、そのほかにエフエムひらかたのサテライトスタジオ部分と、大きく4つぐらいに分かれると思うんですけれども、そのうち市民課、生涯学習課、文化観光課が委託しているふれあいホールについては、市の機関として入っておりますので、ここから敷地代というか応分の負担ということになりますと、結局、枚方市から出ることになります。そして、エフエムひらかたにつきましては、市が出資しているコミュニティ FM という形で緊急放送を含めた市の情報提供ということも含めまして目的外使用の減免措置を取っているという状態でございます。そして、一番最後になりますけれども、ふれあいホールにつきましては、一般の方、利用の方から有料で使用料を徴収しております。それは生涯学習課の方で徴収しておりますけれども、有料での貸し出しという形になっております。

(仕分け人)

それでは、さらに加えてご質問いたしますけれども、この枚方市の主に玄関口、枚方市駅ですね。これは、後ろ側がおそらく家と言えば裏木戸です。そんなに乗降客があるわけじゃないです。それでも、これだけ観光資源として色々とされてるわけですが、それを PR するやり方、あるいは乗降客がどれくらいあるのかというデータ、そういうものを考えて将来の構想を練っておられるのですか。

(説明者)

はい。今おっしゃるとおり、枚方市駅の乗降客、約1日9万3,000人というふうに京阪さんの方からお聞きしてるんですけど、大半はやはりご指摘いただいたように中央改札口の方がメインの入り口になりますので、その比率について京阪さんの方にお問い合わせしたりしておるんですけれども、京阪さんも東改札口と中央改札口で何対何という比率を持っておられないんで、およその目安しかわからないんですけども、確かにおっしゃっていただくように、東改札口は、中央に比べると非常に少ないと。ただ、最近やはり関西外大の学生さんが通られるとかいうことで、少しずつ東改札口の需要は増えているように思います。今ご指摘いただいているように、やはり9万3,000人のお客さんた

ちを何とかこちらに引き付ける方法を考えていかなあかんというのは、内部の施設のレイアウトを変更するなり中央改札口付近にサインを出すなり、その辺からお客さんを誘導していかないといけないなと思っております。

(仕分け人)

使い勝手の話が出たので、使い方の話としてお聞きしておきたいのですが、この3つの使い方というのは、平成6年、設置当初からこういう使い方をされたということによるしいですか。

(説明者)

はい。

(仕分け人)

ふれあいセンターと市民課のサービスセンターとふれあいホールと。

(説明者)

ちょっと色々と流れがあるのでございますが。

(仕分け人)

変わったことがあるのですか。

(説明者)

当初、市民課サービスコーナー、証明書発行コーナーは、駅の高架が全部開設するまでは中央改札口の斜め前ぐらいに市民課だけがありましたのですけれども、駅の高架全体が完成して東改札口ができたときに、京阪さんとの提供場所が東改札口側に移りました。そのときに、今と同じように市民課の証明書発行コーナー、そして福祉ふれあいコーナー、これは作業所などの物品販売と喫茶、今でいう喫茶わおの部分なんですけど、それとあと、ふれあいホールの貸し出し。

(仕分け人)

細かいことはいいんですけど、基本的には使い勝手は当初どおりと。

(説明者)

そうですね。

(仕分け人)

聞きたいのは、今日、朝、駅から来ましたけど、2分くらいで市役所へ着いたんですね。市民課のサービスセンターをつくらないといけなかったというのは、何か市役所の市民課のサービス機能が何か制約があるというようなことがあったんですか。

(説明者)

所管が違うので正確な答えはできないかもしれませんが、土曜日の閉庁、土日の開庁から閉庁に伴うことによって市民の方への証明書発行の便宜を図るということで。

(仕分け人)

それは、例えば役所がやってない夜とかの時間帯ということですか。役所は夜はやってないんですか。

(説明者)

やってないです。

(仕分け人)

その方が管理上いいからですか。普通は今、時間外とか土曜日とか日曜日の昼間とかやってる自治体多いですね。

(説明者)

市民課サービスコーナー証明書発行は、現在夕方まで本庁では。

(仕分け人)

だから、そのためだけに市民課のサービスセンターを置いたということになりますよ。そういうことでいいですか。つまり夜間であるんだとか。

(説明者)

ええ。

(仕分け人)

市役所がすぐなんだから、すぐ。近いものじゃないですか。

(説明者)

土日。

(仕分け人)

いい場所だってお話だから、わざわざこれを置いたということは、よっぽどの必要性があったということだと普通思いますよね。

もう一つのふれあいセンターの観光って話ですが、具体的に観光で何をやるうとして観光拠点事業としてのふれあいセンターを置いたんですか。

(説明者)

観光情報の話で。

(仕分け人)

ですから、具体的に観光情報は、何をどういうターゲットで。それは市民ですか。それとも観光客ですか。

(説明者)

それは市民と。

(仕分け人)

具体的には、どういうコンセプトがそのときに想定されてそうされたのですか。それこそ、枚方宿というのを観光拠点にしようとかそういうもくろみ、そういう構想があってされたのですか。コンセプトがないと大変困りますよね、実際に。やれと言われたってやる方は困ってしまう。

(説明者)

まず、基本的に枚方宿というのが枚方にはございましたので、この部分についての情報発信というのは非常に大事だと。そういうことで、その部分がここにある、これが一連のつながりにもなるだろう、ということで枚方観光協会に。

(仕分け人)

だから、先ほどの説明でも、これからはこっちの方を重視してやっていきたいんだということなので、具体的にどういうコンセプトでどういう観光をここで PR を展開しようということがないと、言うことは簡単ですけどやるのは大変なんですよね。だからそうすると、施設がせっかく先ほどの話のようにいい場所だし、9万3,000人多少裏の手の関係はあるにせよ、そこそこの人は通るわけで、駅から近いし非常に便利だ。結構かけがえのない場所だとすれば、それなりの使い方をしなくてはいかんということですから、やっぱりそういうニーズがあるってことですよ。具体的にどういうニーズがあるから、そういうニーズに応えようとしているのかということ、市民課サービスセンターもそうだけど、観光拠点事業というのもちょっと中身わからないんですよ。だから、



何かちょっと違う商品の展示だとか訳のわからない話になっている気がするんで、そこを何か考え方があるのか、もう一度説明してください。

(説明者)

枚方市内には、例えば温泉地があるとか大きな観光地があるとかではなく、分散している歴史遺産、文化遺産はたくさんあるんですけども、そのことを市民以外の方に周知することも必要なんですけども、郷土の歴史を知って、誇りをもって住んでいただくということを含めた観光の市民の方への周知も必要だと思ってます。そのことを含めた観光事業の展開というのが、これからの課題だと思います。

(仕分け人)

利用方法ということで、私からは喫茶わおということなんですけれども、事業内容のところでは障害者の就労促進を目的としたという、そういう目的によってつくられたんだと、具体的にこれ、何人の方に就労の提供になっていて、このお店が流行ってるとか流行っていないとか、あるいはこういった障害者の方のための就労促進のための施設のほかに、市内の中ではこういったものがあって、この中で、こういった位置付けになるのかわからないので聞くんですけど、たまたま1人の人がずっとやられていて、お客さんもほとんどいないということがないといいなということで、お伺いします。

(説明者)

この分については、障害者事業協会というところで運営していただいております、同じような類似施設、ラポールひらかたとか楠葉生涯学習市民センター、市民ふれあいセンター、菅原生涯学習市民センターも同じように喫茶わおを設置されております。ふれあいセンターの中にも同じようにわおがあり、年間売上が700万円から800万円あるのかなと把握しておりますけれども。

(仕分け人)

それは、このふれあいセンターの中のわおさんですか。

(説明者)

はい、そうです。

就労されてる人数だとか具体的な数は把握しておりません。それぞれの、先ほども言いましたように複合施設で、それぞれの施設が独自に活動されてるところをうまく活動しやすいように共益費や負担金を出資することで、この4施設の運営がうまくいくような形での負担になってますので、それぞれの活動についてはそれぞれのところで把握しているということが一つです。

(仕分け人)

ふれあいセンターの中のわおさんでは、こういった障害の方が働いてるとか。

(説明者)

身体障害の方もおられましたら、自閉症の方もいらっしゃる、さまざまな障害の方がいらっしゃるというにはお聞きしています。複数の方で交代で勤務されているというのに対して指導員の方が何人か交代で指導に当たられているということになります。

(仕分け人)

今、700万というのは月額ですか。

(説明者)

年額です。

(仕分け人)

年額 700 万円ですか。

(説明者)

はい。

(仕分け人)

総売り上げがですか。

(説明者)

はい。そういうふうのうちでは把握していて、そんなもうかるものでは。

(仕分け人)

いや、もうかるどころじゃないですよ。人件費だって出ないですよ。例えば、都内なんかでよく、結構おいしいパンを焼いて、喫茶コーナーと一緒にやってすごいお客さんを集めるような障害者もいるんですよ。あるんですよ。だからそれはね何か、にぎわいづくりになることですね、活気も出てくるし。

(説明者)

ただ、お客さんをやっぱり絶えず何人か。

(仕分け人)

それは年額 700 万円で大体数人でしょう。1 日 2 万とか 3 万とかの世界でしょうね。まあ甘いですよ。

(仕分け人)

ちょっといいですか。これ、例えば、枚方においしい店があるのかなと思ったら、そこに行けば教えてくれるんですか。

(説明者)

はい。観光ガイドさんが。

(仕分け人)

ということは、大体降りる人は中央口のほうに人が流れてそっち行きますよね。東口にそれがあるということは、何か書いてあったり表示ができたりするんですか。

(説明者)

それが一番、我々の課題だと思っております。今現在、中央口を降りても東口にその部分があるっていう表示ができてない。ですから、まずそれをしなければいけないっていうのが我々の考えです。

(コーディネーター)

一方、市民の声の施設ってことでもおっしゃってましたけども、ご存じでしたか。これがあるのは。

(仕分け人)

あることは知ってました。

(コーディネーター)

ご存じでしたか。

(仕分け人)

いえ。

(コーディネーター)

こうなってくるんですよ。先ほどの喫茶店の話になりますけれど、できれば彼ら自

身もにぎわいづくりに協力していただければ、就労支援ということではあるにせよ、東口の方にも人の流れをとおっしゃいましたので、そういう問題もありますよね。そうしてくると、市民課があって、生涯学習があってっていうこの横の連携もそれぞれが、それぞれの事業をやってるだけですよ。

(説明者)

そうですね。今のところ4者が集まって協議会を開くとかという形は取っていませんので連携みたいなものが必要になってくるかと思いますね。

(コーディネーター)

せっかくサテライトスタジオもあるんで、おいしいパンのにおいがしてきますなんて聞こえてきたら行きたくくなりますもんね。

(説明者)

そうですね。

(コーディネーター)

もうちょっとうまく思うんですけれどもね。

(コーディネーター)

それでは、仕分け人の方々、そろそろ評価シート見ながら議論を進めていきたいと思えます。よろしくお願いします。

(仕分け人)

今、質問されていた内容ですが、この施設っていうのは、誰がこの部分に何を置くというのを決めているんですか。例えば、サービスセンターというのを一つ例に取りますと、枚方市さんはで土日、開いてるのはここですよ。これ、京阪沿線の方々はずごく便利だと思うんですけど、片町沿線の方とか、車をよくご利用の方にとっては、すごく土日にしたら不便な場所ですよ。違いますか。

(説明者)

そうですね、JR沿線からすると、いったん乗継をしてこちらへ。

(仕分け人)

しかも、すぐそばに本庁舎がある。駅から歩いて数分で行ける場所にあるっていうことかというと、本庁舎だったら横に市役所の駐車場があって、駅からも近くて、土日開

いてたら両方ともうまくなるのに、なぜここにこれを置いたんだろうとすごく疑問に思うんですけども、それは担当課ではないということになるかもしれないんですけどね。となると、ここは一体誰がこれを考えてるんだろうと思ったんですが。

(説明者)

地域サービス事業という形で、実際は第1会場の方でたぶん今日の最後だと思うんですけど、市民課の方がこのあたりを含めた仕分けについてたぶん議論されるんだと思うんですけど、こちらからはちょっとその辺で。

(仕分け人)

第1会場でこれもし、場所変える方がいいよっていう話になるとかそういうのがあった場合、ここすごく空いてしまうというのは、この施設をコーディネートしておられる方っていうのはおられないということでしょうか。

(説明者)

それは、文化観光課と、それから関係部署が集まった関係者会議等々を開きながら、どういう活用をしていくかということを決めていきたいと。もちろん、ここが最初に設定されたときも、平成6、7年のぐらいの話だと思うんですけども、そのときも関係部署が集まって協議をした上で、この施設を有効に活用するにはどうしたらいい施設になるかを相談したと聞いております。

(仕分け人)

駅前にどういう施設が必要かというのは、その自治体の状況によってかなり違ってくると思うんですよね。地方都市と枚方市さんのように駅の利用客が相当多いところだけでも、例えば駅から歩いて2、3分のところに市役所があるというような状況のところと、駅から相当遠いところに市役所があるから、駅前にこういう市民課的な機能があったら便利なところ、色々あると思うんですよね。だから、それぞれどういう状況で、こういう駅前に自治体が利用できるスペースがある場合に利活用されてることは、事例としては色々調べてらっしゃいますか。

そういう具体的な成功事例とかを集めて、じゃあこちらはこういう立地条件で、こういう特性なり、人の動きがあるんだからこうしようというものがないと、やっぱりあれもこれもというちょっと得体の知れない使い方になってしまって、結局それぞれ十分に利活用されないという話になるわけですね。

例えば足立区、東京都の。これは北千住の駅前の再開発したときにリクルートとハローワークとタッグを組んで、区の方で、職業のハローワークの機能プラス民間の職業紹介の機能と色々ハード、ソフト面も含めてそういうスペースをつくったんですね。こ

れは国の特区を使ってつくったわけですね。その運営がどうなったかわかりませんが、それはやっぱりそういう足立区の特長、それから駅周辺、一連の一つの人の流れとか、色んなことを勘案しながら独自の取り組みをされたわけですけども、具体的にこの枚方市さん、たとえばハローワーク、どこにあるんですかね。すぐ近くにあるんですかね。

(説明者)

市役所の北側にあります。

(仕分け人)

それは便利といえば便利。

(説明者)

あと、駅のロータリーを通ったところにも、出張所というようなものも配置されておられます。

(仕分け人)

だから、今の市民のニーズに合わせてどういうふうに利活用されればいいのかというのは、それこそやっぱり駅周辺にどういうものを公共設備で置いてるかということたくさんの事例を踏まえながら、でなきゃ観光って、私自身もし担当になったらどうしようって困っちゃうって感じでバンザイですよ、正直言って。具体的にあって、こういうものがあるよってご説明できるんですか。ちょっともう一回確認しますが、話はわかりますよ。だけどやりたいこととできることは違うんですよ。

(説明者)

やはり駅前の特性を生かしたというのは、非常においしいって言い方はあまり適当ではないですけど、やっぱり活用せなあかん場所ですので、我々原課としては、ここも色々長い経過がありますので、その辺詳しくはないんですけども現在色んな部署が担当してきて、最終的に今現在は文化観光課が全体をコーディネートしている形になっております。ですから、私どもとしては観光の拠点にしていきたいというふうには考えております。

(仕分け人)

例えば、枚方市駅前でなくてもいいですけど、保育ステーションとかそういう機能はあるんですか。

(説明者)

保育所。

(仕分け人)

駅前の、例えば保育所とか、保育所というものでなくてもいいですけどね。

(説明者)

あの、公設ではない。

(仕分け人)

民間では。

(説明者)

民間では、駅の高架下に 24 時間預かっていただけるような保育園とか。

(仕分け人)

わざわざ駅前にそういったものをつくる自治体も結構ある。まあそれはいいか悪いか自治体の状況によりますから、一概にそれがいいとは、そういうことじゃないんですけどね。

(仕分け人)

ふれあいホールについてお尋ねするんですが平成 21 年度実績 42 件、使用料収入 146 万といった具合ですが、稼働率というのはどのくらいで。

(説明者)

約 68%くらいになります

(仕分け人)

あとですね、専有部分の日常清掃・衛生に要する費用 205 万円というのは、どんな支出になるんでしょう。一括でどちらかが。

(説明者)

請求書が上がってきて、それに合わせて支払っております、京阪エンジニアリングさんというか、もともと京阪電鉄さんと協定書を取り交わしております、その清掃の、ちょっと説明不足で申し訳なかったのですが、清掃だけでなく、そこに入ってる、電気設備とか色んな点検があるんですけども、そういったものの点検とか、使用とかに関してはもともと駅で上に電車が入っていますので、電車の運行に差し支えがあるような

レベルでは困るということで、電鉄さんの方からこの会社についてということで指定があつて、そこと契約をさせてもらってます。ということで、この専有部分の清掃とか。

(仕分け人)

ということは、随契ありきということですか。

(説明者)

随契ではなくて、負担金という形で、一般の競争入札という形ではなしに、そこと契約というか、協定書を最初に交わすという。

(仕分け人)

実際、タダで使わせてもらっているからエスカレーターのところの負担金も面積按分で払わされてたり、何か囲われてるような気がするんですけども。

(説明者)

駅の構内という特殊な事情というのもあるんですけども、共益費というか、マンションでいう共益費に当たる共用部分の負担金については、平米 1,000 円という月がけの協定なんですけど、他のテナントさんも色々入っておられて、それも同じように負担をされてますので、いわゆるマンションの一室の共益費という形になっています。

(仕分け人)

家賃の部分に当たるところは。

(説明者)

家賃については無償にしてると。タダで貸すけれども、他のテナントさんは、ユニクロさんとか吉野家さんとか入っておられますけれども、そこはそれなりの賃貸料を払っておられて、なおかつそれなりの共益費の負担金を払っておられる。

(コーディネーター)

そろそろ時間になりましたので、ここで整理をしたいと思います。

事業シート、評価作業シート 1 番不要のところですが、この施設は要らない、もしくは市民のにぎわいをつくるという目的に関しては合ってるんですけども、またゼロに戻して手段、やり方を考えるっていう場合には 1 番不要。2 番 民間のところですが、税金を使ってやる事業はやらない。要するに民間にここはすべて使ってもらおうとすること。レストランとか喫茶店とか、民間の、そういったようにしてしまおうという場合には 2 番 民間のところ。民間委託は、またこれ違うのでここには入れないでください。



て、同じく 2 番 国・府・広域がこの事業をやるべきだという場合は 2 番 国・府・広域のところに。3 番枚方市がこの事業を民間委託も含めてやっていくんだけど、今のやり方じゃなくて、やり方を改善してやるべきだといった場合は、3 番枚方市・要改善。4 番枚方市・現行通というところは、今のままそのまま続ける、もしくは今のやり方を拡大して継続するという場合は 4 番の結果になります。

仕分け人の方々、評価シートは書き終わりましたでしょうか。

(コーディネーター)

1 番不要(2人)、2 番 民間(0人)、2 番 国・府・広域(0人)、3 番枚方市・要改善(4人)、4 番枚方市・現行通(0人)ということで、この班の結論は、枚方市・要改善ということになりました。評価に当たってのコメントって下に書いてあるんですけども、それでは、この評価に対して何かご意見がありましたらお願いいたします。

(仕分け人)

本当に全体的に利用者数を増やすために何か色々考えていらっしゃると思うんですけども、それを具体的に何かされてることあるんですか。

(コーディネーター)

例えば物販、観光ってということで何か物産とか販売したりされている。

(説明者)

はい、してます。枚方市内のお菓子や物産だとか友好都市の物産を販売いたしております。

(コーディネーター)

ただ並べてるだけじゃなくて売ったりもしてる。

(説明者)

はい。もちろん。直売しております。コーナーごとに都市ごとに分け、販売しております。

(仕分け人)

例えば、そこで朝市が出てるとか、そういったものに来たい人たちはいるんですか。

(説明者)

実際には農政の関係とかで朝市じゃなくて物販はやってるんですけど、ただ、トラックだとかで運搬してくると、車を止めてすぐ売れるというようなところに、これ、駅構内の中に入りますので、搬出入にちょっと問題があるかなと。それとあと、おっしゃっていた PR の関係ですが、枚方文化観光協会の方のチラシを市の色んな施設に配布をしたりして、この観光拠点についても PR してるんですけども、いかんせん、まだまだ周知が足りないという、我々の反省とするところです。

(仕分け人)

最後に迷ったんですけどね。不要とは思わないんだけど、やっぱり民間の方がいいかなと。その方がやっぱり駅前の活性化にはつながるということですよ。今の物販にしてもサービスにしても喫茶の件にしても。例えば、障害者の雇用を前提にしてもうちょっと気の利いた、喫茶でもね、色々付加価値を付けてやってらっしゃるわけでしょう。それを含めてやっぱり民間の方が、駅前の活性化には現状だったらつながるだろう。民間でもたぶん使えるスペースだと思うんですよ。ただ、その前提としてこうでなければならぬ、ニーズを改めてもう一回検証すべきだと思うんですよ。

それは、例えばハローワークの機能を駅前に集中させて、いつでも仕事についての相談ができるように、今、雇用は非常に厳しいからということやってるところもあるし、いわゆる駅前で保育をするということ、市が例えば民間の保育機関と連携してやっている。あるいは市が直接やっている保育ステーションなどをつくってやっているっていうケース、色々それぞれの自治体で取り組みされてますよね。だから枚方市が今駅前でこういう公共サービスを展開したいという、展開しなければならぬという市民ニーズに即したものを検証していただいて、それでもどうしても駅前でなければならぬものがないのであれば、やっぱり思い切って、これはタダで借りてるからいいって話ではなくて、むしろ民間に使っていただいたほうが駅前の活性化にはつながる。まちのためにはいいと思います。

(コーディネーター)

そもそも話で恐縮ですけど、この話は京阪からか、あるいは枚方か、どちらがこの話を持ち出したんですか。

(説明者)

駅の高架を行う高架事業の中ではいわゆる 10%ほどの面積を公共施設に無償提供しなくてはいかんということもあるようでございます。この駅の高架事業をされたときに、枚方市に自転車駐輪場とか、うちのサービスセンターもそうですし、含めてやって 23%ぐらいを枚方市に対して無償提供していただいている。その中で、その有効活用をどうするというところで、いくつか出てきたお話です。

(コーディネーター)

では、よろしいですか。要改善ということで、いい機会だと。みんなで市民も含めて、市だけでなく市民みんなで考えて進めていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

(説明者)

ありがとうございました。